

佳作  
(中学部門)

さいたま市立三室中学校 2年

やまだ きしょう  
山田 紀翔

あなたのことは全部覚えてる

母

母から初めて叱られた日を覚えている。三歳の夏、テレビを三十分だけ見る約束をした。番組に夢中になり、時の経つのを忘れた。テレビの画面が真っ黒になった。テレビの電源を母が黙って落としたのだ。「もっと見たい」と泣きながら訴えた。「ダメなものはダメ」と母は強く言った。母が鬼に見えて怖かった。

あれから十年。反抗期を迎えた私は母と言い争いの毎日。怒られ続けて母が嫌いになった。

ある時母にたずねた。「初めて俺を叱った日を覚えている？」と。母はその日のことを鮮明に覚えていた。

私と母の記憶が一致した。「あなたのことは全部覚えている」と言った母をまた好きになった。